

平成22年度第2回東郷湖活性化プロジェクト推進会議 会議録

日 時 平成23年1月20日(木) 午後3時～4時30分
場 所 湯梨浜町役場 2階第1・2会議室

1. 開 会 進行：中本企画課長（仙賀副町長：事務局長不在のため）

それでは、定刻になりましたので、若干遅れている方もあるかと思いますが、平成22年度第2回東郷湖活性化プロジェクト推進会議を開催したいと思います。天候の悪い中、お集まりいただきましてありがとうございます。協議事項に入るまで、企画課の中本が進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、町長のあいさつをお願いいたします。

2. 町長あいさつ

皆様、本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。この間の雪で、湯梨浜町でも漁船が沈没したり、或いは東郷湖でも船が水没したりということがございます。ハウレンソウを中心にビニールハウスも相当痛んでおりまして、県と協議をいたしまして、なるべく負担を減らしていこうと考えているところでございます。

今日は、東郷湖活性化プロジェクト推進会議にお集まりいただきました。この一年間の取り組みの状況をご報告申し上げますとともに、来年に向けて、また新たな課題についてご議論いただければありがたく思っています。よろしくお願いいたします。

3. 会長あいさつ

本当に雪の多い状況ですけれども、その雪の中に、東郷湖、東郷池があり、本当に存在感のある池だなあといいことをよく感じます。どの季節でも、春は春の、そして夏は夏の、秋は秋の東郷池、本当にすばらしいなあと感じます。この東郷湖活性化プロジェクトチーム、この東郷湖をみんなでどうするんだという様々な議論が行われています。この事業が、お互いにやっていることを情報共有しながら、より事業が効果的になる、そして地域は、この湯梨浜の財産である東郷湖をもっと盛り上げながら、湯梨浜そのものを良くしていこうという、それが大きな狙いかと思います。先程、町長さんからごあいさつがありましたように、現在、どんな事業が進捗しているのか、或いは、我々は目標値を立てている部分があります。どの程度目標値が達成しているのか、していないのか、ということを確認しながら、さらなる取り組みの充実のために、ご意見をうかがいたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

4. 協議事項 進行：山田会長

それでは、協議事項に入るに当たって、私の方から進めさせていただきます。今日は、お時間を4時半までと設定させていただきます。

平成22年度事業進捗状況について、担当課長の方から順次進捗状況を説明いただきますが、お手元に資料があるかと思えます。この順番に沿って、ナンバーと事業名をお話いただいた上でご説明をお願いします。はじめに、水草肥料化調査について、町民課お願いします。

(高田町民課課長補佐)

町民課の高田と申します。山田課長が所用のため、代わってご説明させていただきたいと思えます。n o. 1水草肥料化調査でございます。実施主体の方は、東郷湖の水質浄化を進める会ということで、東郷池の中に生えているフサモ、水草を刈り取って池の外に出してしまおうというものです。刈って沈殿すれば水質悪化を招く水草をボランティアの皆さんや漁協にご協力いただきまして、池の外に搬出するという事業であります。10月2日に実施いたしました。刈取量ですが、2トンです。衛生環境研究所の方で調査をしていただきまして、従来水草の生えている量に対して、だんだん水草の量が少なくなっているということがわかりましたので、刈取量について多少抑えて、今年度は実施をしています。参加者が79名、漁協の方で漁船の協力を10隻いただきました。10月4日にフサモの乾燥作業を行っております。保育所、幼稚園の児童さんに協力いただきまして、48名の参加をいただきました。乾燥させて肥料として保育所等で1トン利用いただきまして、その他、バーク材の方に再利用ということで、1トン利用しています。

n o. 2魚道設置試験については、今年度実施の予定はございません。

n o. 3東郷池を守るアダプトプログラム制度の導入ということで、12月末現在での参加団体が21団体あります。啓発の看板アダプトサインにつきましては、新規に2箇所設置をさせていただきました。それぞれの団体が、年2回程度を目標に活動を行っております。実績報告は3月ですので、まだ実績自体の集約はしておりませんが、平成21年度の参考として、清掃回数延べ48回、参加者は約600名の参加をいただいたということです。清掃活動について皆さんにご協力をいただきながら、実施していただいているところであります。以上でございます。

(山田会長)

ひととおりご説明いただいてから、ご質問等いただきたいと思います。n o. 4建設水道課お願いいたします。

(岸田建設水道課長)

建設水道課岸田です。よろしく申し上げます。n o. 4水質浄化覆砂事業及び効果検証ということで、覆砂事業につきましては、平成21年から22年の2年間で実施いたしました。今年度分につきましては、12月で覆砂工事は完了いたしました。砂の量としましては、16,100m³を投入しています。平成21年度につきましては、14,750m³投入しておりますので、合わせて30,850m³の砂を投入しております。効果検証につきましては、年4回予定されておまして、1月までに3回の調査が済んでおりますけれども、3月にもう1回、冬季の調査をするということで、検証は来年度に発表する予定であるとうかがっております。現時点では、底質の全窒素、リンの減少が見られているということ、シジミの稚

貝が確認されていること、それから、水質については局地的な変化はなしと報告いただいております。以上でございます。

(山田会長)

それでは、n o. 5以降について、産業振興課お願いします。

(戸羽産業振興課長)

産業振興課の戸羽です。よろしく申し上げます。n o. 5シジミの生息環境改善対策でございます。これにつきましては、シジミの増殖を目的に覆砂を実施すべきというものでございます。ただ、今、砂の確保が難しくなっております。今年度につきましては、県の方がストックしておりました砂をいただきましたので、9月に補正をあげまして、10月から12月にこの覆砂事業を実施したところでございます。次年度以降についても、砂の確保ができれば実施を検討していきたいとこのように考えております。

n o. 6内水面の環境保全でございます。これは、漁協の方が中心となりまして、東郷池のクリーンアップ事業を行うということで、湖面、或いは、湖底の清掃を行うものです。10月に実施ということで、11月末には完了しております。

n o. 8湖産物料理メニュー化促進ということでございますが、これについては、商工会の地域活性化委員会によります新メニューは、現段階での進展はございません。ただ、今年度、町が共催となりまして、商工会が主催のゆりはま大漁まつりと町が従来実施しておりました地産地消ゆりはま市を同時に開催いたしまして、泊漁港の方で販路拡大に努め、地域の活性化を図って参りました。その折に、鯉めしなどの販売も実施をしたところでございます。

n o. 9観光客誘致でございます。これは、毎年実施しておりますカニバスの件でございます。今年度は、昨年の12月から今年の3月までの予定で、現在カニバスツアーを実施しております。松崎地区の団体の方とも連携したり、商工会、或いは、旅館組合の方で街あるき新聞の作成、配布など、地域の活性化につなげております。引き続きアンケートを実施いたしまして、今後のさらなるステップアップを図っていきたいという具合に考えております。

n o. 10特産品販売促進活動でございます。まず、販売促進の方でございます。梨の出荷時期の昨年9月3日から5日、東京新橋にあります東京アンテナショップの方でキャンペーンを行いました。梨を中心に特産品の試食ですとか、販売を実施してまいりました。梨の方は、用意したものすべて売り切れるというようなことで、途中で追加もしたような状況がございました。それからもう一つは、町観光協会の地域づくりプランナーを中心に、町内の製品を使いまして、梨シロップですとか、梅の漬け汁、或いは、甘酒、醤油、梨パウダーなどの菓子等の試作を実施しています。今、色々な試行錯誤をしながら、試作をしておりますので、できるだけ早く試食等ができるような形にもっていききたいなという具合に思っております。

n o. 11観光商品造成戦略活動でございます。まず、観光客誘致宣伝キャラバンということで、香川、高知、愛媛、広島、それぞれの旅行エージェントの方に訪問いたしまして、湯梨浜町の観光についてPRを行っております。それから、既存の着地型観光プランの実施ということで、滝床料理、或いは、梨選果場見学、3月には野花梅溪散策ツアーの実施を予定

しております。新たな観光商品造成は、今のところ進捗はないですが、滝床料理につきましては、今1回でいたい40人から50人ぐらいの受入のところ、これを何とか80人ぐらいにと検討しているところでございます。

no. 12-1 観光客誘致ということで、この度、新規に入れた項目でございます。燕趙園の関係ですが、皆さんご存知の通り、今年の4月から燕趙園が道の駅として登録される運びとなっております。燕趙園、或いは、龍鳳閣も近くにありますが、この地域の拠点施設として観光客の増を図っていくということで、町としても支援をしていきたいと考えています。この度、町の方で声掛けをさせていただきまして、先日の1月17日に燕趙園で、まず、売店の拡充ですとか、農産物の加工品ですとか、商品など、もっともっと町内の皆さん方に協力いただいて商品を出していただく、特徴のあるものを何とかして活かしていけばいいのではないかとということで、色々な団体、県にも入っていただいて情報交換を行いました。4月にはイベントも用意されるようですので、それに向けて、まずは売店の拡充ですとか、周辺環境、看板等もありますし、そのあたりのことも踏まえながら、一つの拠点にしていきたいということで、集客の増加を目指して頑張っていこうと考えています。今後とも、団体の皆さんで定期的に情報交換をしていけばどうかということでございますので、そういう方向で進めていきたいと思っております。

(中本企画課長)

ページごとに報告していきたいと思っております。no. 7 稚魚放流調査ということで、企画課の方が担当している訳でございますが、これは、サケの飼育放流プロジェクトとして町として協力参加するというのと東郷湖活性化プロジェクト事業の取り組みを広く宣伝するという目的で実施しています。現在の事業進捗については、昨年12月11日に発卵眼の受け取りを行いまして、現在、役場、東郷支所、橋津保育所、松崎幼稚園等で稚魚を飼育しているところでございます。現在、役場庁舎の玄関口に置いて、町民の方々に見ていただけるような状況にしております。3月中旬に放流予定でございます。実績といたしまして、昨年11月下旬頃から東郷川への遡上が確認されているところでございます。

no. 12 観光客の誘致ということで、燕趙園が実施されている事業でございます。遊覧船を使つての東郷池から見る燕趙園という形で実施されているようでございます。実施状況といたしましては、平成22年度4月から10月ですけれども、大人が71名、子どもが2名乗船されているということが実績としてあがっているようでございます。以上でございます。

(山田会長)

それでは、no. 13以降について、産業振興課お願いします。

(戸羽産業振興課長)

no. 13 ホワイトライアスロン in 湯梨浜でございます。昨年第2回大会ということで、5月22日、23日に実施いたしました。選手が299名、町民ボランティア、それから、大会ボランティアを合わせまして600名の方々にお世話になりまして、事故もなく終わることができました。

(中本企画課長)

no. 14 湯梨浜夏まつりということで、企画課が担当しております。進捗状況といたしましては、水郷祭は昨年7月20日に実施いたしました。はわい温泉まつりは7月24日に実施しております。燕趙園花火ということで、8月14日から15日に予定通り実施しているところでございます。

no. 15 中華コスプレプロジェクトでございます。実施状況でございますが、第8回を迎えた日本大会として、昨年5月22日、23日に実施されております。約80名の参加をいただいております。第3回中華コスプレアジア大会ということで、コスプレ大会を2回実施しておられます。これにつきましては、10月23日と24日に実施され、約140名の参加をいただいているところでございます。

no. 16 東郷湖ドラゴンカヌー大会ということで、ドラゴンカヌー大会実行委員会が実施されているところでございます。進捗状況といたしましては、第10回東郷湖ドラゴンカヌー大会ということで、昨年8月22日に予定通り実施され、102チームの参加をいただいているところでございます。以上でございます。

(山田会長)

それでは、no. 17、18について、産業振興課お願いします。

(戸羽産業振興課長)

no. 17 水源域森林育成作業でございます。これは、緑の産業再生プロジェクト事業で、国の交付金事業を活用いたしまして、除間伐、或いは、竹林整備をしようというものであります。この緑プロ事業によりまして、間伐、或いは、竹林の整備、タケノコ竹林の整備を実施しています。また、クヌギの分収造林も実施をして、森林環境の整備をしているところでございます。そのことによって、水源涵養機能が維持、増進が図れるものと思っております。

no. 18 エコファーマーの推進でございます。環境にやさしい農業をということで、化学肥料の減につなげていくものです。現在、エコファーマーの認定者が、平成21年度末で1,107名でございます。JAの栽培暦で減農薬ですとか、減化学肥料ということで実施しております。なお、今後、県の特別栽培農産物認証制度というものがありますので、少し時間はかかるかとは思いますが、そういったことも念頭に置きながら、レベルアップできることをしていくということで考えております。以上です。

(山田会長)

それでは、no. 19について、建設水道課お願いします。

(岸田建設水道課長)

no. 19 観光ルート整備ということで、町道今滝線の改良を実施するというものです。現在の進捗状況ですけれども、測量設計業務は10月に完了しております。現在、改良工事を実施中ですが、全線に至っておりません。と言いますのが、事業費が大幅に増えたもので、今回ある予算で一部改良を実施するということです。それではいつ全線改良できるかという話になるのですが、早くても平成24年度末くらいを予定しております。以上です。

(山田会長)

それでは、n o . 2 0 について、生涯学習・人権推進課お願いします。

(蔵本生涯学習・人権推進課長)

生涯学習・人権推進課の蔵本と申します。よろしくお願ひいたします。n o . 2 0 東郷荘絵図活用導入事業ということで、進捗状況の欄をご覧いただければと思いますが、東京大学の史料編纂所の調査につきましては、昨年の7月に実施をされておりました、現在、デジタル化に向けて作業中とかがっております。それから、現在、東郷湖周辺の文化財という冊子がございますが、作成以降、新たに文化財指定になったものですか、解除になったもの等がございますので、これらを加除した改訂版を今月発注したところでございます。それからもう一つ、10月から11月にかけて、県立博物館で海と生きるという特別展が開催されました。この期間中、東京大学の東郷荘絵図の模写本の原本が展示をされまして、この時に見学会の実施をいたしました。約15名の方にご参加をいただきました。以上です。

(山田会長)

それでは、n o . 2 1 から 2 3 について、企画課お願いします。

(中本企画課長)

n o . 2 1 東郷湖活性化シンポジウムということで、企画課が担当している訳ですけども、これにつきましては、平成22年度は実施予定なしということでご理解いただきたいと思ひます。

n o . 2 2 東郷池ロハスプロジェクトでございますが、これにつきましては、事業仕分け等の影響もありまして、地方の元気再生事業が終了してあります。具体的な取組みというものが今ない訳ですけども、今まで実施してきたことによりまして、松崎おもしろ街づくり集団等の取組みとして、三八市の活性化と空き家の活用を図っていただいているところでございます。

n o . 2 3 ゆりはま塾でございますが、町の歴史や伝統、自然等について学ぶ機会を設けていくということで、後世に語り継ぐ人材の育成を目的に実施してあります。最低でも年3回は開催しようということで、実施をしている事業でございます。進捗状況といたしまして、第5回の塾を7月に実施しました。中近世の泊歴史探訪ということで、講師2名により、参加者が23名で実施いたしました。それと、第6回の塾ということで11月に実施しました。さくら工芸品工房を利用しまして、染色と陶芸という形での体験をしていただきました。講師は、さくら工芸品工房に入っておられる先生ということで行ったところでございます。年3回ということで計画しておりますので、3月にもう一度実施することを予定してあります。また、ゆりはま塾生だけではなくて、一般参加もできるような形を今後は検討していったらどうかと考えているところでございます。以上でございます。

(山田会長)

それでは、n o . 2 4 についてお願いします。

(岸田建設水道課長)

n o . 2 4 藤津公園の地盤沈下対策ということで、これは県の事業ですけども、今まではカヌー協会等各団体の方に説明会等を開いて、方針などの確認は済んでおります。今後の

計画としましては、現在、地盤が落っている部分だけに土を盛って、10cm程度盛り上げて、現状を維持する、それからまた沈下していった場合は、そのままの状態であけておくという形をとるといふ具合に聞いております。現在、設計業務については、委託の手続きを実施している最中でございます。工事については、平成23年度予算要求予定で、こちらは財政の方で措置されたような話を聞いております。以上です。

(山田会長)

それでは、最後のno. 25について企画課お願いします。

(中本企画課長)

no. 25 東郷湖活性化プロジェクト推進会議、この会議でございます。年間3回を予定という形で、現在、本会議が2回目の開催でございます。第1回目を昨年5月28日に開催させていただき、第2回目を本日1月20日に開催させていただいたところでございます。以上でございます。

(山田会長)

ひととおりno. 1から25までご説明いただきました。ご質問等ございましたらお願いします。

(宮脇町長：副会長)

触れてほしかったと思う部分をいくつか質問したいと思います。環境の部分のアダプトプログラム(no. 3)ですけれども、21団体となっていますが、平成22年度の新たに加わった団体の数とカバー延長がわかれば教えていただけますか。それから、覆砂の関係(no. 6)ですが、漁協を中心に実施していただいています。この事業の見込みについて教えていただきたいということ、それから稚魚放流(no. 7)、サケが遡上してきたということですが、これはどのくらいの大きさのサケでしょうか、何年後でしょうかということのことがわかれば教えてください。それから、観光の部分のトライアスロン(no. 13)について、宿泊者数、観光振興への寄与などを検証していく必要があるということですが、これはどういう方法で、いつ頃実施しようと考えているのかということについて、もう少し触れていただければと思います。

(山田会長)

それぞれ担当課の方からお願いいたします。

(東原町民課主事)

アダプトプログラムの団体ですが、当初16団体からスタートした団体が、平成22年度では1団体減って、3団体増えての21団体になっています。新しく増えた団体といたしましては、倉吉総合産業高校と町民ミュージカルさんに加わっていただきました。また、担当しております町民課の方でも、有志でボランティアチームをつくり、参加しております、3団体増えております。そのかわり、飲食店で廃業になったところが1箇所ありまして、そこが1団体減りまして、21団体ということになっています。

(宮脇町長：副会長)

no. 6は、県の補助事業だと思いますが、見込みを把握していませんか。継続困難にな

る可能性ありと記載していますが。

(戸羽産業振興課長)

平成23年度までは大丈夫ですが、平成24年度以降については、資料に書いておりますように事業見直しという情報が入ってきております。

(宮脇町長：副会長)

平成23年度はいいんですね。

(戸羽産業振興課長)

平成23年度までは大丈夫です。ただ、続けていくことが大事なことで、止めてしまうということは考えられないと思いますので、要望したり、多少なりとも規模を縮小しながらでも実施していくことが大事かと思えます。

(中本企画課長)

no. 7ですが、何年後かということについては、確認していないところであります。ただ、別添資料を見ていただきますと(関連資料一覧を確認)、だいたい4年後に帰ってくるという実態があるようでございます。資料に「東郷湖や天神川のサケを育てて放流し、4年後の秋、感動の再会をしよう」と書いてありますように、だいたいそのくらいかと思っております。大きさは、資料に書いてありますが、80cm程度が帰ってきたということでございます。何年で、大きさはということについては、確認はしておりません。

(戸羽産業振興課長)

no. 13トライアスロンですけれども、第3回大会につきましては、今年の6月第3週の土曜日、日曜日、18日、19日に開催する予定にしております。資料に書いておりますけれども、大会規模の割には、町内の例えば旅館への宿泊者数で、寄与度というか、経済的な効果がどうなのかということも色々あります。第3回大会は実施するという事で決定している訳ですので、そのことを踏まえながら、できるだけ早く、そのあたりがどうだったのかを分析していきたいという具合に思っています。それから、もう一つ問題なのは、今、県や連合、町も補助金を出している訳ですが、そのあたりもなかなか厳しいものがあるだろうなということで、全体の事業予算も睨みながら、検討していく必要があると思っております。

(山田会長)

他にいかがでしょうか。ご質問があれば、また後程お願いします。次は、資料の5ページをご覧ください。数値目標の達成状況があるようですので、環境、観光、産業、資源、それぞれご説明をお願いします。環境部分について、町民課をお願いします。

(高田町民課課長補佐)

環境の部分につきまして、数値目標が東郷池の水質(COD)4.5mg/lということの設定がされています。達成状況につきましては、平成18年度から22年度まで数値が並べてありますが、22年度につきましては、5.5mg/lということで、備考に書いておりますように、数値目標は中央部CODの75%値で、年度終了までに確定しないために、暫定的に12月末時点の75%値を記入させていただいております。以上です。

(山田会長)

次は、観光、産業振興課お願いします。

(戸羽産業振興課長)

まず、観光人口、宿泊客を年間20万人にという数値目標があります。達成状況のところで、平成21年にリーマンショック以来、大きく落ちまして148,000人余りという数字になりました。昨年22年は、これが11月末時点の数字で145,107人となり、少し持ち直しはしてきたかなという具合に思っております。平成21年を上回るだろうという具合には思っております。

次のシジミの漁獲量年間200トンということでございます。平成18年から22年までの状況は資料に書いています。平成19年は農薬の関係がございましたので、100トンということですが、以来、ずっと200トンをベースで漁獲されています。平成22年につきましては179.8トンということで、漁協の方に確認いたしましたら、漁の制限もしていると、それは、今後の資源保護のためもあるということで、1回の量を15kgから10kgに戻しているという影響もあるかとは思いますが、そういった現在の状況でございます。

(山田会長)

次は、資源のところを企画課お願いします。

(中本企画課長)

各事業の目標数値を90%以上ということで、今回、ゆりはま塾を数値化させていただいております。参加人数が80名ということを目標数値に挙げて実施している訳ですが、平成21年度85名という形で106.2%、今年度はもう一度ありますけれども、12月現在では28名の参加で、35%になっているところでございます。以上でございます。

(山田会長)

それでは、また各委員からご質問や意見をお願いいたします。いかがでしょうか。

(本田委員)

観光人口の年間20万人が145,000人ですか。これは、どういう方々が宿泊されたのですか。145,000人の宿泊の内容的なものは、例えば、グラウンドゴルフツアーとか、それから、湯梨浜まつりツアーとかではないでしょうか。その中で大きいものは何ですか。

(山柘委員)

ほとんど観光エージェントツアーでしょうね。大きいものは、観光バスツアーが2割とか3割、後は個人旅行、残りは先程言われたイベント関係のグラウンドゴルフですとか、滝床料理などが全体として1割弱ではないでしょうか。

(本田委員)

言うなれば、この活性化プロジェクトが果たしている役割は、その中にどんなものがあるのですか。色々な人が来るのはわかるんだけど、また、実際に来ているんでしょうけれども、こういったものがあつたからこういう具合に来た、或いは、こういうものがなかつ

たからこうなったんだというような分析が必要ではないか。

(戸羽産業振興課長)

その内容の分析ですね。今の山柘委員の話ですと、エージェントツアーが一番多いようですけれども、後は個人客とか、先程言われたようにグラウンドゴルフとか、卓球ですとか、滝床料理とかのイベント関係が多いようですけれども、そのあたりを今後、どういう形態なのかということも、まずは分析もしていく必要があると思います。私どもの方でもわかっていませんので。

(本田委員)

活性化プロジェクトでこういうプログラムを組んだんだと、だからそれに向けて数字論拠としての目標を立てて、関係者皆が努力しようというようなそういう計画性のあるものではないということですか。そういう具合に、やっぱりしていただく、観光客を誘致する場合の方向性を示す必要があるのではないか。これに対する燕趙園の役割、どれくらい関わっているのか。

(宮脇町長：副会長)

本田委員が今おっしゃったことは、私が思っていたことと同趣旨だと思っています。ここは145,000人という数字が、11月末時点までの全体の宿泊者の数が挙げてある訳です。東郷湖活性化プロジェクトの中で、ホワイトライアスロンin湯梨浜ですとか、或いは、プロジェクトには挙げていなくても、グラウンドゴルフ大会とか、みんな町民の皆さんの協力をいただきながら実施しているイベントがあるということで、とりわけ東郷湖活性化プロジェクトに挙げてあるイベントがどれだけ観光に寄与しているか、町に寄与しているかということをやっぱり示さないと、住民の皆さんもそういう気持ちで、湯梨浜の良さを知ってもらいたいという思いでお手伝いしてくださっておりますので、そういうことが全然でこないとモチベーションが崩れるということもございますし、そのあたり、多分ジュニアグラウンドゴルフですとか、卓球ですとか、そういったものは事前に町内の旅館への振り分けをやっていますから、その度にどのくらい最低限泊まってもらっているというのは押さえることができると思いますので、その数字も収集してプラスするようにはどうかと思います。

(本田委員)

燕趙園とこの活性化プロジェクトの連携について、燕趙園との連携を含めて宿泊というようなことを、何か燕趙園は燕趙園、こちらはこちらという気がするのですが、燕趙園と観光協会とは何か連携しているのですか。

(戸羽産業振興課長)

今まで、龍鳳閣も近くにあって、龍鳳閣ともそのあたりの関係が薄かったという面があったようです。この度、燕趙園が道の駅に認定されるというような運びになってきましたので、町の方もですし、農協ですとか、或いは、色々な団体の方に参画していただきまして、今後の周辺の活性化をどのようにしたらいいかというところで、この間情報交換をしたところで。今までそのあたりが少し欠けていたのかなと思いましたので。

(本田委員)

と思いますではなくて、燕趙園もお客さんが減っているということでたいへんなようですので、やっぱり町との連携が、私は以前から燕趙園は県のものだということで、何か別施設みたいに使われていたような感じがするんですよ。このプロジェクトの中に入っているのなら、はっきりと連携付けて、燕趙園を助けるような格好でもって行ってもらいたいと思います。

(戸羽産業振興課長)

やっぱりお互いに相乗効果を生まなければいけないと思いますので、それぞれが考えて実施するというだけではなしに、皆さんで色々集まってやるような意見があるので、この間も大分意見が出ておりましたので、定期的にずっと一緒になってやっていくということになりました。言われる通りだと思います。

(山田会長)

他にはいかがでしょうか。

数値目標の時に、例えば平成22年度は当然年度別なので数値は気にしないんですけども、少なくとも21年度の同時期はいくらだったかという数値を出していかないと比較のしようがないんですね。だから、ある時点、時点を比較するというのもよく使います。例えば、具体的な話をすれば、ゆりはま塾は年間3回で、22年度はもう一回あるという話ですけども、それでは21年度2回の時は何人だったのか、ということに関するような数値目標の設定をされないと比較がしにくいなということと、それから大切なことは、シジミの目標は別として、これをもっと良くしていくためにどうすればいいかという戦略をここで練っていかないと数値目標がこうですと言うだけではどうしようもないので、これを基に、先程おっしゃったことと関連するんですけども、数値を上げるにはどうしたらいいのかということのために数値目標を設定しているので、是非、そういうことをお考えいただきたいと思います。

(本田委員)

例えば、道の駅について、具体的な内容はあるのですか。それに対して、数値目標的なものはあるのですか。道の駅ができたらどのようになるのですか。

(戸羽産業振興課長)

道の駅は、国土交通省が認定するもので、今、鳥取県内に12箇所あります。羽合にも9号線に1箇所ありますけれども、要は、情報発信ブースができて、後はバリアフリーのトイレ、情報発信ブースにはテレビ等がありますけれども、24時間利用できるような状態になるということです。燕趙園の場合は、大きな改修をしなくても道の駅に認定できるということになります。後は、中国地区の道の駅の雑誌ですとか、それから、パソコンで色々道の駅の関係について出てきますけれども、それにも検索ができますし、車のナビにも掲載されることになります。そういうことなんですけれども、中身が大事ですから、9号線とはまた違って、車の量が多分9号線より少ない訳ですから、売店など何か特徴のあるものを用意して、色々な方の知恵を借りながら、集客増に結び付けていくということですけども。

(本田委員)

あまりイメージはわかりませんが、あそこは一方通行ですね。一方通行の解除などは検討されるのですか。

(戸羽産業振興課長)

そのことについても、この間の情報交換会で出ておりました。反対から入れるような形を考えるべきではないかということで、色々な意見が出ておりました。何箇所か看板も付けるということですので、そういう看板についてもきちんと検討してもらって、わかりやすい表示にしたいと思っています。

(本田委員)

人が来ない道の駅にならないようにお願いします。

(山田会長)

他にいかがでしょうか。どんな角度からのご意見でも結構です。例えば、この数値目標をもっとちょっと良くするためにはどうしたらいいかというご提案でもよろしいですし、その他ちょっとわかりにくかったという部分でもよろしいですし。

(宮脇町長：副会長)

一つは、資源のところ、各事業の目標値を90%以上にするということが書いてありまして、資源のところの目標数値というのは、なかなか项目的に挙がっていないのが現状です。たまたま、ゆりはま塾が何回開催するというような書き方がしてあるために、これを引き合いに出しているということで、実はこのこと自体がすごく重要性を持った目標であるかというところではなくて、本当の目標というのは、一斉清掃あたりで何人参加して下さったとか、町民運動として環境面でどのように活動が強まっているかということの方が本来大事な指標になる筈なんですけれども、結局各分野から目標を設定しようということで、この資源の分野は各事業の目標値を90%以上ということですから、逆に言いますと、各目標に数値をもっとうめなければいけないということがないように思います。それがないために、ゆりはま塾だけが出てきて、何かそぐわないような感じを受ける目標達成状況の検証になっているという風を感じています。

それからもう一つは、これは衛生研究所の方にお尋ねしたいのですが、県の水質管理計画を見た時に、その目標数値を達成すると魚が住めない環境数値になっているということにある時気が付きまして、それがCODかどうかはわかりませんが、その数字を目標にもってきているかどうかはわかりませんが、それで魚が住まないようなきれいな池をつくるのを目標にするのがいいのかという素朴な疑問を持っておりまして、CODとの関係はどうですか。

(永瀬衛生環境研究所研究員：代理)

目標をどこにもっていくかということですか。

(宮脇町長：副会長)

水質管理計画の最終目標の数値だと、魚が住めない水にするということになっています。そうすると、東郷池にそういうものを求めるのは不適切であるということになって、水質計

画そのものにも町として文句をいう必要がひょっとしてあるかもしれないなと感じたところです。そのあたりをどこかの場面で教えていただければと思います。

(東原町民課主事)

水質管理計画をつくられた時には、環境基準というのがありまして、それを基に4.5 mg/lが設定されたものと理解しています。そして、例えば、下水道の普及でありますとか、エコファーマーであるとか、それぞれを適切に実行していけば、4.5 mg/lというのが達成できるのではないだろうかということで、水質管理計画が設定されたものであると理解しています。それで、魚が住めるということがありましたが、だいたいCODが5 mg/lぐらいが、鯉などが住むのにちょうどいいぐらいのCODだということもわかっておりますし、実際にCOD値が、人が心地よいと思う環境と比例するかということもまたそれと違っているのではないかと、最近、衛生環境研究所が実施している調査でもわかっています。実際にCOD値自体は、湖山池とそれほど変わらないのですが、心地よいと思うかどうかという部分に関しては、例えば、東郷池の応援基金とか、景色のいい所を見ましたら大部分の方が心が癒されるというような意見もいただいておりますので、COD値だけで見るのは、もしかしたら違っているのではないかと風にも考えております。その中で、ではどういう池にしたいかということをやから考えていくことも必要ですが、ただ、現行あるCODが5.5 mg/lということがあって、少しでもきれいにしていこうということで、4.5 mg/lと設定されました。また、水質管理計画見直しの時期もありますので、そのあたりも含めて検討していくことが必要ではないかとも思っています。

(山柘委員)

COD値という意味がよくわからないのですが、飲めるのにきれいなのか、何か原因があって水が緑になったり、見た目にはきたないと思いますけど、魚ですとか、シジミには餌になるということになります。ところが、透明でも実際飲むと毒素が入っていたり、見た目にはそちらの方がいいかもしれないですけど、という基準があると思うんですね。COD値というのは、どういうことを意味しているのですか。

(東原町民課主事)

例えば、水を汲んできて、その中にごみなどが引っ付きやすい液体を入れた時に、その液体に付いたごみの量をCODとして測っているということです。

(山柘委員)

何をごみと定義するのですか。プランクトンのことも定義するのですか。

(永瀬衛生環境研究所研究員：代理)

CODというのは、水の中の有機物の量の指標として、有機物が多ければ、値が高くなるという値です。例えば、プランクトンが増えたりすると、プランクトンも有機物になるので、CODの値も高くなります。

(山柘委員)

東郷池に適した目標を決めないと無理ではないですか。そうすると、水蒸気の水しかきれいでないということになりますからね。有機物はすべて入っていますから。温泉でも、井

戸水でも、湧き水でも、水道水も塩素で消毒していますから。そうすると、東郷池を実際にどうするのかということになりますよね。変な話で、シジミも生きていけなくなるし、その基準がよくわからないですけど。CODという値が、何を目標にされているのか、この4.5mg/lというのがいいのか、それとも4.5mg/lからすると、平成18年度の5.2mg/lから一度5.0mg/lに下がって、今年は5.5mg/lになっています。これは、きたなくなっているということになるのですか。5.0mg/lくらいが、鯉などの魚介類が生育するのにちょうどいいとなると、今がそんなに悪いということはないし、4.5mg/lになるとさらに悪くなる、見た目はきれいで有機物は何もなくなって、透明度が高くて、摩周湖のように水深が100mも見えるような、きれいな水が目標なのかどうなのか、そこがよくわからないというものか悪いものかが判断できないと思います。そのあたりの説明をしていただければと思います。

(高田町民課課長補佐)

4.5mg/lという数値は、鳥取県の東郷池水質管理計画に書かれていまして、県の方も根拠があってその数値を掲げてはおられると思いますが、それをこの段階ではそのまま踏襲した形にさせていただいています。達成の状況については、見られてわかるように、5.0mg/lからどちらかというとな値が増えていくようなスタイルをとっています。東郷池の場合、どちらかというとな流入の方がある程度ありますけれども、海の方から海水等が流れてくるとことは流入に対して少ないですので、水質の指標自体は悪くなる傾向の方が強いのです。きれいな水が入ってこないとな悪くなる傾向の方が強いのかなと思っています。

(山柘委員)

魚が増えればいいような気がするんですけども。

(中本企画課長)

水産試験場さんの方で、魚の生息するCODについて何かあれば。

(福本水産試験場技師)

達成状況に出ている5.0mg/lという値は、鯉ですとか、フナですとか、海水と淡水が混ざる汽水に生息する種に適している、そういう種が生息するところなんですけれども、例えば、COD3.0mg/lくらいになると、有機物の量が少なくなるので、溪流の方でマスとか、イワナとか、そういう魚に適したような値になります。

(山柘委員)

4.5mg/lという数値は、バランスのとれたちょうどいい値ということですか。

(福本水産試験場技師)

水質の値をどういう方向にもっていくかということが、まだ色々な意見があって、はっきりいえない部分でもあります。

(永瀬衛生環境研究所研究員：代理)

現状として、環境基準というのがきちんと設定されていて、今が5.5mg/lくらいで、それに近づけていくためにということで4.5mg/lという数値を設定しているところで。現状として、CODを水質管理計画の目標値としているところで、それに向けての値と

して設定しています。それで、利用する側としてどこに目標をもっていくかということになります。

(山根委員)

すべての産業が幸せになるような、うまくいくようなことが一番いいですね。それが4.5 mg/ℓであったら目標にしましょうという話になるし、魚が死んでしまって、獲れる魚が何もなくて死海になるのであったら、それはダメだよという話になるし、そのあたりがよくわからないですね。

(川崎委員)

今お聞きすると、3.0 mg/ℓになって、2.0 mg/ℓになって、1.0 mg/ℓになれば、水はきれいで良いですけども、東郷池にフナとか、鯉とか、ナマズもそうでしょうけれども、そういうものが姿を消すという理屈にはなってきますか。ある程度きれいになると生活できませんから。ですから、鯉とか、フナとかですと5.0 mg/ℓくらいがいいけれども、どんどんきれいになってくると、滝から流れる水のところには鯉やフナは生きられませんよね。

(山根委員)

そうすると、今がちょうどいいような気がしますよね。

(渡部水産試験場次長)

水道水でも飼えるんですよ。飼えるけども、後は栄養状況が適した方がいいのか、栄養がなくても住めるものなのか、水温の関係もあります。人間の都合で、フナや鯉よりも見た目きれいな水にしましょうということを目標にしているという訳です。けれども、住めない訳ではありません。目標をフナや鯉に当てるのか、どの魚に標準を当てるのかということであるとあります。

(川崎委員)

そうすると、4.5 mg/ℓをキープする作業も必要だということですよ。

(渡部水産試験場次長)

例えば、覆砂ですけども、海水が入ったりすると窒素、リンが上がってきてCODが増える、それを抑えて4.5 mg/ℓに近づけようとする作業ですよ。そういう目標があるので、目標に向かって具体的な事業を実施しているので、別に5.5 mg/ℓでよければ今のままでいいということです。魚もよければ、そういう目標を設定すればいいということです。

(山根委員)

COD値が増えると魚が増えるのですか。程度の問題もあるのでしょうか。結局、どこが一番いいのでしょうか。

(山田会長)

そのバランスをここで決めたいですね。僕は東郷池に面したところに住んでいますから、やっぱりきれいな方がいいと思います。素直に。けども、魚の話もありますので、そのバランスをどうするかということで、4.5 mg/ℓから5.0 mg/ℓくらいかなという話に

なってきます。

他にいかがでしょうか。よろしいですか。

(川上燕趙園：代理)

園長の米田が出張に出ておまして、代わりに来させていただいています川上と申します。先程、東郷池の遊覧の話と道の駅になるというところで、燕趙園の側から少し補足させていただきたいことがございまして、no. 12とno. 12-1をご覧になっていただきたいんですけども。no. 12の燕趙園の遊覧というのは、望湖楼さんの船をお借りして、燕趙園の遊覧船を毎週日曜日に実施させていただいている企画でございます。1名1,000円頂戴します。子どもさんは500円ということで、5歳以下は無料で運行しているものなんですけれども、正直申し上げてこの人数では全く商売になっていない状況です。1回の運行に約1万円かかりますので、4月から10月までの6カ月間運行するということになりますと、お客さんは1名でもいれば運行しますので、だいたい10回くらい稼動した状態で10万円くらいですので、71名ということは71,000円ということですから、全くの赤字事業です。地元の羽合の婦人会の方に来ていただいた時は、地元をこんな角度から見るができるというのはすばらしいことだという風にお誉めの言葉を頂戴いたしまして、事業としてはすばらしいと思うんですけども、なかなか周知徹底に至りませんで、来年度に関しては、どういう形になるのか、最小催行人数のようなものを決めさせていただいて運営していくのかというところで検討しているところです。計画としては、来ていただいた方には喜んでいただいていると思いますし、船に入ってガイドをするだけではなくて、燕趙園のオリジナルウーロン茶を飲んでいただいたりというようなこともしているんですけども、1時間観光客に滞在してもらおうということはなかなか難しいことございまして、10時から運行するという時間の都合上、終わると11時になるということで、次の目的地に向かって出発される方には少しきわどい時間になってくるのかなというところです。

もう一点、道の駅のことに関して、先程、本田委員からお話があったんですけども、県から連絡がきていることに関して言えば、燕趙園が道の駅に登録されるということで、県の方からしていただけることは、バリアフリー化と情報パネルの設置です。後は、燕趙園の方で段取りをしていくという連絡がきていますので、燕趙園で準備をしていかないといけないんですけども、今の段階で道の駅にどういったビジョンをしていくのかということが現場レベルではまだまとまっていない状況ですので、このままいくと3月、4月くらいに見切り発車するような形になると思います。担当者レベルでやらないといけないと言われていることは、ブロードバンドの整備ぐらいでございまして、町の方をお願いして、ブロードバンドを引いてもらって、情報パネルを24時間稼働させるということなんですけれども、道の駅で24時間稼働するとなると、電気代等も確実に上がってくることになりますので、道の駅にすることイコールが燕趙園に人を呼んでくれるかどうかということにつながるかどうかというのは、本当に皆さんに助けていただかないと燕趙園が非常に危ない状況であることは間違いなくと思います。人数的には、前年度比で18,000人くらいの入場者数の減です。特に、団体が15,000人くらい落ち込んでいまして、個人客で5,000人弱、私が4

月に着任しまして、実は全く鳥取県に縁もゆかりもないところから来たものですから、燕趙園で1年色々と勉強させていただいたんですけども、非常に危ない状況だなあと思いながら1年やらせていただいているような状況です。燕趙園の側から皆さんにお願いさせていただきたいのは、本当に燕趙園を湯梨浜町のイベント広場という形で認識していただいて、色々なことを助けていただいて、そして、盛り上げていただけないと、多分道の駅にしても本田委員がおっしゃるように、全く誰も来ないような道の駅になってしまうという危機感は、現場の人間がすごく思っていることです。このまま話が上の方で決まっていって、話が決まった中で我々が動いても、何ができるんだろうという危機感をすごく持っています。何とかお助けいただけないでしょうかということ、この間、園長から町の方にご協力をお願いをさせていただいたところです。以前は、ゆりはま市も燕趙園で実施していただいたということも聞いていますし、地元の方々に本当に助けていただいて、道の駅燕趙園と引地地区を盛り上げていただけるように、我々も必至に汗をかいて頑張りますので、よろしくお祈りします。現場の人間としては、一人でも多くの方に燕趙園に来ていただいて、グラウンドゴルフもそうなんですけれども、湯梨浜町に多くの人が集まってくるように頑張りますので、よろしくお祈りします。以上です。

(山田会長)

他にいかがでしょうか。

(本田委員)

チラシの説明をさせていただきます。「東郷池を考えるつどい」を1月29日の午後行います。もともと、メダカの会と衛生環境研究所でスタートして実施した訳ですが、その時の内容がすばらしかった、このような内容を一人でも多くの皆さんに見ていただきたい、聞いていただきたい、そして、東郷池を知っていただきたいということが、参加者の共通した意見でした。そういうことで、町の方をお願いして、水質浄化の会で町民の皆さんに話をして、大きくやろうではないかということが、今回のことにつながりました。狙いは、ただ東郷池の環境だけを理解するのではなくて、環境を活かすことが次の東郷池の活性化につながる事業、或いは、色々なイベントにつながるのではないだろうかという一つの思いがあります。だから、環境をすることによって、次に何をすればいいかということをもみんなで考えてみましょう。今の燕趙園の話も一緒だろうと、環境的には問題はない、では後は何をやるかということ、29日の会でやろうかということ、町民レベル的な会議をバージョンアップしてもらって開催するものであります。せっかくの機会ですので、是非、来ていただけたらと思います。特に、旅館組合には、旅館のガイドの時に東郷池の環境の話を観光・環境ガイドという格好で、新しい切り口でやっていただけないかなと、そのためにも、参加していただきたいなと思っています。よろしくお祈りします。

(山田会長)

他に各委員から何かございますか。よろしいですか。それでは、今後のこのプロジェクト推進会議の日程についてご説明いただけますか。

(中本企画課長)

年3回という形で目標を立てて、通年ですと5月、10月、3月に実施させていただいた訳ですけれども、今回は1月に開催しております。本来でしたら3月に実施させていただく訳ですけれども、1月から3月ということになりますと、間隔が短いかなという思いがあるものですから、次回はまた5月に第1回という形で実施させていただけたらと思っています。

(山田会長)

非常に効果的な会を1回ずつやるにこしたことはないんですけども、もし3月に開催したら、どういうことが内容になりますか。

(中本企画課長)

平成23年度の計画と平成22年度の実績です。

(山田会長)

実績はすべて出ますか。

(事務局：林)

その段階で実績が出ているものもあれば、そうでないものもあります。

(宮脇町長：副会長)

3月か4月か、実績をきちんと押さえてということであれば、4月になろうかと思います。今日、できれば来年度の目標設定として入れておくべき項目があれば、意見を出していただければと思います。次回たたき台として使えるかなと思います。

(山田会長)

時期のことは置いて、町長が言われたように、何かこういう目標を是非入れておいた方がいいのではないかというご意見があれば、今、おっしゃっていただければと思います。

(宮脇町長：副会長)

一つは、以前お話したことがあると思いますけれども、豊かな海づくり大会の関係で、ロハスの時もそうでしたし、シジミをまいて、子どもたちが喜んで獲ってくれたということがありまして、その延長線上で、東郷池を大切にするという気持ちを持つ意味で、なるべく一般町民も係った方がいいということで、町内の子どもを対象にシジミを獲ってもらう体験イベントをどこかでやれたらどうかという気持ちがあります。それから、来年、是非目標として入れたいと思っておりますのは、東郷湖周の活用ということを盛んに言われます。東郷湖周回コース12km、この間の情報交換の時に、総合事務所長さんご同席のところでも申し上げたのですが、そこを全部歩道で歩けるような状況にしたいということです。今ある具体的な動きとして、NPO未来と町の商工会が一緒になって、湖周の道路に、「燕趙園から5kmです」というような標識と、「ここには一の宮があります」という観光案内を兼ねた距離の標識を出したい。ノルディックウォークとか、ウォーキングとか、或いは、将来的に自転車で町内を回ったりする時にも役立つだろうという意味で、そういう取り組みもやってこられまして、町としては県の方にもお願いしながら、本当に散策できるコースとして、例えば、出雲山には下照姫命が出雲の国を懐かしんで見ているようなモニュメントとか、銅像を建てたり、はわい温泉にはカメハメハ大王の銅像を建てたり、その下に足湯でも設置すれ

ば、すごいインパクトがあるかなと思っています。後段の方はとてつもない夢ですけども、前段の方は是非実施したいと思います。そのあたりを目標に挿入したいと思っています。

(山田会長)

私も、鳥取県ウォーキング協会の会長ですので。東郷湖一周のコースは、日本の500選に選ばれているんですね。すばらしい景色なので。おっしゃっているように、標識があると随分違うと思います。

こんなものを入れたらどうだというご意見があれば、今、おっしゃっていただければ、入れられるものは対応されると思います。

(本田委員)

かつて、東郷湖一周ペアマラソンがありましたよね。いつから無くなったのですか。

(中本企画課長)

ペアマラソンは、ドラゴンカヌーにシフトしていったという経緯があります。

(本田委員)

旧東郷町には、結構、走ろう会で全国を回っておられる方、グループが多いのではないですか。

(尾崎委員)

記憶にある限りでは、ペアマラソンの時とか、ベテラン卓球と前後してあったんですよね。そのペアマラソンとベテラン卓球は、かなりのお客さんが東郷温泉に宿泊していましたよね。それで、ドラゴンカヌーにシフトして行って、ドラゴンもある程度は宿泊していらっしゃるかもしれないけど、ペアマラソンの方がイメージ的に多かったように記憶しています。

(本田委員)

実際に、500人くらい来ていたんですよ、あの頃は。今、ベテラン卓球は350人でしょう。なぜ少なくなったかというような分析がなされていないんですよ。

(尾崎委員)

年齢層が上がって、若い人が少なくなったということもあるのではないのでしょうか。

(山柘委員)

色々な規制が結構厳しくなっていますよね。一つの県から一つのチームを出さなくてはいけないとか、関西の方は大阪府なら大阪府、兵庫県なら兵庫県とあるんですけどね。兵庫県が集まってきたり、大阪府が集まってきたりすると、一つの県で1チーム5人集めなくてはいけないとか、色々混じるとそれは止めてくれとか、色々な規制が出てきて、それがネックになっている部分もあるのかなと思っています。

(尾崎委員)

確か、静岡県かどこかの卓球大会とほとんど前後するような、大きい大会ができて、分散したかもわかりませんね。ベテラン卓球の方から聞いたことがあります。

(山田会長)

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。今出たような意見も、取り入れられるものは取り入れてください。

次回に関しては、事務局の方で検討していただいて、3月に開催して有効なのか、有効でなければ、4月以降で考えていただければと思います。

特になければ、これで終わらせていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

(山柘委員)

ちょっと教えてもらいたいんですけども、東郷池周辺で、あやめ池から出雲山まで、だいたい桜の木が並んでいますよね。ところが、半分は植えられていないんですけど、もし続いていけば、たくさん人が集まりやすいと思っています。水際の潮風の関係だとか、桜小学校もあり、桜の名所でもあると思うんですけど、それができないのか、たまたまなのか、もとの歴史がわからないので、もしわかれば教えていただきたいのですが。

(宮脇町長：副会長)

ふじつ荘の前に忠魂碑が建ててありますけども、その方たちが実はつくられたもので、ずっと管理もしてきておられます。それで、自分たちも管理ができないということで、ついでには、県の方に受けてやってくれないかと言われたんですけども、県もこのお金のない時代ですから、持ちたくないということで、そういう状態であれば切ってくださいということになりますよと、町の方でお願いしますという話があって、私が先程一周の周回コースと言った中には、町民の方から東郷湖一周に桜があれば、見事なものになるのになというようにことをイメージとして頭の中に描きながらいるところです。

(山柘委員)

先程の話ではないですが、ペアマラソンが復活すれば、かなりインパクトがあるんじゃないかなと思います。

(山田会長)

よろしいですか。それでは、今日はこれで終わります。